# 豪州準備銀行は5会合連続で政策金利を据え置き

- 豪州準備銀行(RBA)は大方の市場予想通り、政策金利を1.50%で据え置き。金利据え置きは5会合連続となる。
- 声明文では概ね従来通りの国内景気判断が示される。RBAは向こう2年間の豪経済成長率を年率3%程度と予想。
- 2016年10-12月期のインフレ率は予想通りの結果となり、RBAのインフレ見通しも大筋変化していない模様。
- 資源価格上昇により豪州の貿易黒字は過去最高額を更新。RBAの政策金利は2018年まで据え置きの見方が大勢。

## RBAは5会合連続で政策金利を据え置き

豪州準備銀行(RBA)は2月7日の金融政策理事会で、大方の市場予想通り、政策金利を1.50%で据え置く決定を下しました(図1)。政策金利据え置きは2016年9月以降、5会合連続となります。

## RBAは従来通りの国内景気判断を示す

今回の理事会はRBAの経済予測の改定月であることから、足元の物価や雇用などの経済統計を受けたRBAの経済見通しの変化に注目が集まりました。

RBA理事会の声明文では、①向こう2年間の豪州の経済成長率は年率3%程度での推移が見込まれる、②労働市場は引き続き強弱が入り混じった状態にある、③2016年10-12月期の消費者物価指数(CPI)は予想通りの結果となり、RBAのインフレ見通しは大筋変化していない、と従来通りの国内景気判断が示されました。RBAの経済見通しの詳細は、2月10日公表の四半期金融政策報告で明らかにされる予定です。

## 資源価格上昇から貿易黒字が過去最高額を更新

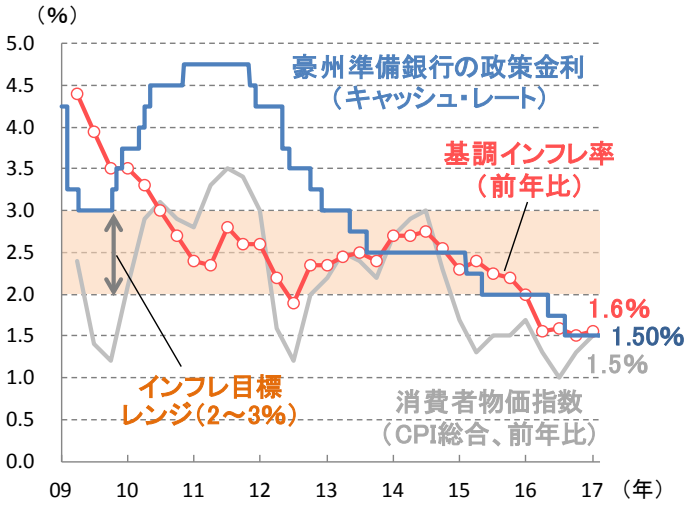
一方、外部環境の面では、RBAは世界経済状況の改善に言及し、資源価格の上昇が交易条件改善を通じて豪州の国民所得を押し上げているとの見方を示しました。

実際、2016年12月の豪州の貿易収支(財・サービス収支)は、資源輸出の拡大にけん引され、35.1億豪ドルと過去最高額の黒字を更新しました(図2)。米トランプ政権の発足以降も豪ドル相場が安定を維持している背景には、こうした貿易収支改善などの要因があると考えられます。

## 政策金利は2018年まで据え置きとの見方が大勢

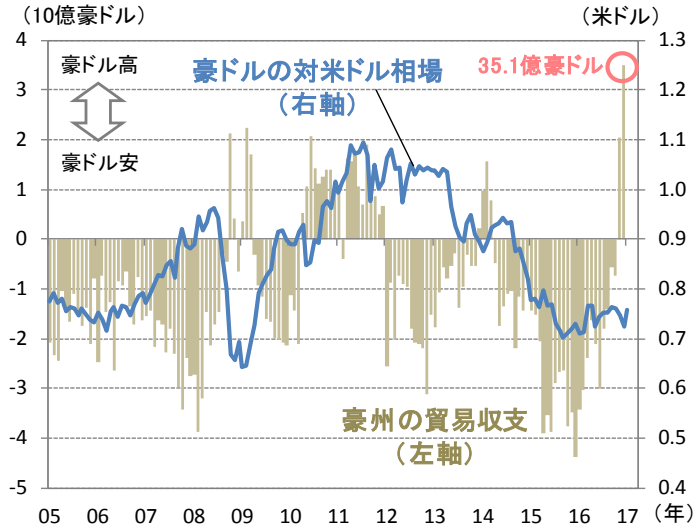
今回のRBA理事会でもロウ総裁は先行きの金融政策に関する方針は示さず、様子見姿勢の継続を示唆しました。金融市場ではRBAの政策金利は2018年まで1.50%で据え置かれるとの見方が大勢となっています。

図1:豪州準備銀行(RBA)の政策金利とインフレ率




(出所)豪州準備銀行(RBA)、豪州政府統計局(ABS)
(期間)基調インフレ率:2009年1-3月期～2016年10-12月期
政策金利:2009年1月1日～2017年2月7日
(注)基調インフレ率は消費者物価指数(CPI)のトリム平均値と加重中央値の平均により算出。

図2:豪州の貿易収支と豪ドル相場




(出所)RBA、ABS
(期間)2005年1月～2017年1月(貿易収支は2016年12月)

●当資料は、説明資料としてレッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものですが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。